

アルミ水素有用性 国際展示会でPR

アルハイテック

廃アルミから生成する「アルミ水素」の普及を進める環境ベンチャー、アルハイテック（高岡市オフィスパーク）は10月上旬、アラブ首長国連邦（UAE）の首都アブダビで開かれた

石油、ガス、エネルギー業界で世界最大級の国際展示会「ADIP ECCC2023」に参加した。水木伸明社長らが国内外で注目を集めるアルミ水素の有用性をPRした。

水木社長は「廃アルミニウムの新たなケミカルリサイクル技術による『グリーン社会』の創造への挑戦」

と題し講演。2050年に世界で約2千万トンのアルミ



アブダビ国営石油会社と商談を行う水木社長（右から2人目）ら＝アブダビ

スクラップが余剰になるとされる業界の課題に対し、同社の技術がアルミの新しい利用方法として有益であると好評を得た。アブダビ国営石油会社との商談も行った。

日本政府のパビリオンにブースを設け、アルミ水素製造装置の模型を展示し、麻生善之執行役員技術本部製品開発・保証管理室長がプレゼンテーションを行った。岩田和親経済産業副大臣がブースを訪問した。